

『もりおかの短歌』

秋の部 優秀賞十首

この秋もあき ひれやぶ鰭破れたる

鮭さけいくつ

与よ じばしの字橋ぎよえい みいにて魚影ぎよえいに見入る

盛岡市 石川 修子

欄干らんかんに身みを乗のり出だして「来きた来きた」と

街川まちかわゆび指ささし

鮭さけをむかえる

盛岡市 堀米 公子

句読点くとうてんかんたんふ感嘆符がんげんごなどつきかなている

『悲かなしき玩具がんぐ』の

行間ぎょうかんの白しろ

京都府長岡京市 吉田 正美

もりおか まち ある
盛岡の街を歩けば

たくぼく ちが
啄木とすれ違いそう

すす
まっすぐ進む

秋田県湯沢市 佐井 良子

たくぼく せつこ あい せつ
啄木と節子の愛の切なさに

おも は
想ひを馳せる

ふうふ ひ
いい夫婦の日

青森県青森市 鈴木 操

ばんしゅう
晩秋に

まつ み ふゆじたく
松の実かじり冬仕度

いそが うんどうこうえん
リスも忙し運動公園

盛岡市 赤坂 昌信

いただ くも おほ いわてさん
頂きを雲に覆はるる岩手山

こころ のこ
心に残して

あさひばしき
旭橋去る

千葉県市川市 長田 強子

やますそ
山裾の

こうよう
オオヤマザクラ紅葉し

ひのと さと あき ふか
日戸の里の秋は深まる

盛岡市 小林 貴史

ごしよこはん
御所湖畔

きばな さ ころ
黄花コスモス咲く頃に

ぬるゆ つま つ
つなぎの温湯に妻と浸かりぬ

盛岡市 小林 貴史

うま わた なかつがわ
チャグチャグと馬コが渡る中津川

せ の あこ
背に乗る吾子に

しよか かぜ
初夏の風ふく

岩手県矢巾町 小野寺 一洋

秋の部へジュニア部門へ 優秀賞三首

もりおか
盛岡が

う てんさい
生んだ天才 たくぼくの

きも
気持ちになって

しば
芝にねそべる

盛岡市 村上 諒

もりおか
盛岡は

やま かこ
山に囲まれ 川多し

わ ふるさと
ロマンあふれる 我が故郷よ

盛岡市 川村 樺音

たくぼく しんこん いえ よ
啄木の新婚の家で読みふける

いわてにっぽう
「岩手日報」

れきし かん
歴史を感じ

盛岡市 相馬 美織

【講評】

暑からず寒からずの好季節「秋の部」の応募総数は178通でした。そのうち68通はジュニアの皆さんは自主研修という学習の一環として、または「盛岡通の旅」というテーマのもと、グループごとに興味のある場所や施設などマップを頼りに巡った様子が伝わります。一般の部では鮭の遡上や岩手山、あるいは啄木の歌集など、素材に幅があり心に響く作品に多く出逢うことができました。

平成三十年十二月選 秋の部

投稿数 百七十八首

選者 松田 久恵